

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2672700289
法人名	医療法人弘愛会西村内科
事業所名	医療法人弘愛会西村内科 グループホームさくらプラザ
所在地	舞鶴市北浜町7-2 (電話)0773-64-2267

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	大阪市北区天満橋2丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年9月11日	評価確定日	平成20年10月14日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6.3 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋造り
	2 階建ての 1・2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,400 円			

(4)利用者の概要(7月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低 82 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	(独)国立病院機構舞鶴医療センター、(医)弘愛会西村内科、細菌科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が運営するグループホームです。駅近くの住宅街に周りに溶け込んだ2階建ての大変温かみのあるホームです。「いっしょにゆったり楽しい共同生活」を標語に掲げ、利用者の支援を心がけています。職員はチームを組んで、それぞれの分野で何でも話し合い検討しながら、日々のケアに取り組まれています。利用者の得意な事を大切に「待つケア」を心掛け、また要望があればすぐに実行することをモットーとし、日々の買物や散歩、ドライブなどの日常的な外出の他、利用者の要望に応じた様々な個別外出も支援され、楽しみや気晴らしとなっています。医療法人である特性を活かし、医師の往診や看護師の訪問があり、24時間連絡も可能で、安心出来る体制が整えられており、ターミナルケアにも取り組まれています。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の結果を受けて、年間の勉強会の計画を立てたり、職員研修の受講履歴の明確化を図るとともに、報告書・伝達研修の充実が図られています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、職員全員で自己評価に取り組み、チームで検討し管理者がまとめるかたちで実施されており、意識の確認、ケアの見直しを通してサービスの質の向上が図られています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族、市役所職員、町内の方、民生委員、老人会代表の方が参加し活発な意見の交換がなされ行われています。日常的な関わりの提案や地域の情報を提供して頂いたり、ボランティアの要請に対しても参加者より地域へ声かけがなされています。畑作業の見守りや外出介助などの援助に繋がり、地域とホームの良好なかかわりとなっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や電話、年1回の家族を交えた行事にて気軽に相談や要望を聞ける体制が出来ています。管理者は絶えず家族からの意見を聞き取るように努めており、出された意見等についてはすぐに職員間で話し合い、共有するとともに改善に繋がっています。また、意見箱がリビングに設置されており、書類には公的機関を含む苦情相談窓口が明確にされています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の作品展に参加し、町内会の特別会員として地蔵盆や、毎月1回市の美化活動に参加しています。子どもの110番の家に登録したり、独居老人の見守り役割を担ったり、保育園や幼稚園との交流を通じて地域に根ざした事業所となっています。また、玄関のベンチでは近隣のお年寄りや買い物帰りの方との交流の場にもなっています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の地域での生活支援という法人の理念や事業所の理念をもとに、「いっしょに ゆったり 楽しい共同生活」を標語に掲げ、日々支援されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念がすぐに確認できるように携帯用のカードを職員に配付されている。いっしょにゆったりという思いをたえず念頭におき管理者、職員はミーティング等で話し合い、ホームが利用者の居場所となるように日々のケアを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の作品展に参加し、町内会の特別会員として地蔵盆や、毎月1回市の美化活動に参加している。子どもの110番の家に登録したり、独居老人の見守り役割を担ったり、保育園や幼稚園との交流を通じて地域に根ざした事業所となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の結果を受けて、年間の勉強会の計画を立てたり、職員研修の受講履歴の明確化を図るとともに、報告書・伝達研修の充実が図られている。今回の自己評価についても、職員全員に自己評価票を配布し、管理者がまとめている。サービスの振り返りになり求められていることへの理解に繋がることを認識している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、市役所職員、町内の方、民生委員、老人会代表の方が参加し活発な意見の交換がなされ行われている。日常的な関わりの提案や地域の情報を提供して頂いたり、ボランティアの要請に対しても参加者より地域へ声かけがなされ、畑作業の見守りや外出介助などの援助に繋がり、地域とホームの良好なかかわりとなっている。		

グループホームさくらプラザ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者との連携が密に図られており、学生の実習や相談員の受け入れ、キャラバンメイトの講師依頼などを行っている。希望する研修内容に基づく、市主催の研修も実施されており、市とホームが共に様々な活動を通じて交流が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしや健康状態は家族の来訪時に報告している。また毎月さくらプラザ通信を送付し、年に4回担当職員により利用者ごとの様子や写真が掲載されたライフスタイルを送付している。金銭管理は、立替払いで領収書原本を送付し、毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱がリビングに設置しており、家族がホームにいられた際や家族との交流会などで気軽に相談や要望を聞ける体制を取っている。書類には公的機関を含む苦情相談窓口が明確にされている。	○	管理者は、顔つきや様子を見て家族に要望や不満を聞き出すようにしており、ミーティングなどで職員と話し合い共有に繋げているが、さらに一歩進んでアンケートなどで共通の思いを収集してはいかがでしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・退職者がほとんど無く、馴染みの職員でのケアがなされている。職員間ではチームを作り、より深く利用者と係わるように工夫がなされている。職員のストレス緩和を考え休憩室を設置し、職員が安定したケアを継続出来るように配慮している。新しく入られた方にはベテラン職員と一緒に勤務に入り、紹介や声掛け、記録を通してスムーズに馴染めるように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、グループホーム連絡会などの外部研修を受講し、研修受講後は会議にて報告をしている。伝達研修の報告書に研修目標とその成果、現場へ伝えたいこと等を記入し、職員のスキルアップを目指した工夫がなされている。また認知症介護実践者研修を職員の半数以上が受講終了しており、より質の高いケアに対応できる体制となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加盟して、職員間の交換研修を行ったり、交流や意見交換などを行っており、舞鶴市内の他のホームとも行事に参加したり、相談等を行い、サービス質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人の事前の見学を依頼しており、ホームの雰囲気をみて頂くためおやつと一緒にとるなどしてもらっている。事前の来訪が望めない場合は、居宅に向いている。入居後は利用者の状況をみながら、家族と連絡を密に取り、相談しながら馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	重度化していく中で、利用者同士の助け合いやさりげなく職員を手伝うなどお互いに支え合う場面が出てくる。料理の仕方や習わし、季節の行事などを通して、利用者から教えてもらうことも多く、会話が弾むような声かけを重視している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で出来るだけ利用者の思いをくみ取り、意思疎通の困難な方には家族に聞いたり担当者チームの中で情報の交換を行い、定期的に利用者や家族の希望、本人の出来る事、援助が必要なことについて話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞いて、毎月のミーティングにて職員の意見を収集し、サービス担当者会議には看護師も参加し、また必要に応じて主治医の意見も照会にて反映し、一人ひとりに合った介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1回サービス担当者会議を開催し、出来ること・援助が必要なことについてアセスメントを行い、計画の見直しが行われている。利用者の状況の変化があった場合はその都度見直されている。		

グループホームさくらプラザ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に合わせて通院の介助や利用者の要望にあわせて、落語を観に行ったり、実家やお墓参り、喫茶店やカラオケ、コンサート、お風呂好きな方には銭湯など多様な個別の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前の主治医の継続を依頼しており、入居時に利用者や家族の相談の上希望のかかりつけ医を決めている。利用者の主治医とは医師である法人理事長が直接連携を取っており、週2回の往診や週に4、5回の看護師による健康管理もなされ、安心した体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期の意向について確認しており、入居時の意向をもとに重度化した場合やターミナルにおいては医師との連携、家族、職員との話し合いを通して情報を共有しながら支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	出来るだけ丁寧な言葉掛けを意識し、入居者本位に配慮している。職員間で作られている緩和チームでも話し合わせ実践している。個人情報事務所の鍵の掛かる書庫に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に合わせて利用者の思いにそうように支援している。生活リズムを大切にしながら声掛け等を工夫し、出来るだけその方に合ったペースで対応出来るように心掛けている。		

グループホームさくらプラザ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は冷蔵庫の中や広告を見て利用者と相談しながら決めており、畑の野菜の収穫をはじめ買物も一緒に行き、出来る範囲での調理や配膳、後片付けを行ってもらう事で食事を一日の大切な活動のひとつとしている。調理の得意な人には部分部分の手伝いではなく一品を作ってもらうなど職員と共に過ごす楽しい食事となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体制として朝9:00～20:00まで入浴が可能である。希望に合わせて毎日の入浴や夕食後の入浴支援がなされており、夕方からの職員体制にも配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の行いたいことを聞き出し、自分を表現出来る場面づくりに努めており、ボタンをつけてもらったり、編み物をしたり出来ることを大切に支援している。楽しみ事としては、歌を歌ったり、希望を募って懐かしい映画の上映会を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日買物、散歩に行っており、地域に出向いたり、外食に行ったり、公園や植物園に車で出かけたり、畑仕事などその方にあった支援を日常的にしている。行きたいという希望が出れば、職員間で時間を融通しあい即実行を心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階を不在にする際は施錠する場合があるが、日中は鍵を掛けないケアの実践に取り組んでいる。利用者の情報を交番に届けており、地域との交流により地域も見守り手となり、利用者の自由な暮らしが支援されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	総合・部分訓練を年に4回実施しており、実際に日没での夜間想定訓練も実施されている。地元の消防団への情報提供や市役所への連絡・相談、運営推進会議でも話し合い、協力を得る働きかけを行っている。		

グループホームさくらプラザ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や適量の把握に努め、食事摂取量は全員記録されている。水分は利用者が随時飲めるように配慮し、必要な方は記録している。献立は管理栄養士に毎月チェックしてもらい栄養指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	パーテーションを利用してリビングの様子が目に入らないように配慮している。ホーム内には季節感が出るように花を生けたり、絵や利用者と職員の写真を飾るなど、居心地良い空間作りに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面所が備え付けられており、利用者の状況に応じての居室づくりがされている。馴染みのある物を持って来てもらうように家族に働きかけ、タンスやテレビ、大切にされている仏壇や家族の写真等が飾られている。また、カーペットを敷いたり、部分的に畳にしたり、希望にあわせた支援も行っている。		